

## 第2回地下街と駅周辺地域活性化分科会記録

日 時 平成21年8月7日（金）19:00～21:00

場 所 小田原箱根商工会議所 4階 会員談話室

経 過

前回、意見交換を行った内容、タスクフォースの提言内容をもとに第2回分科会を行った。

### 〈主な意見〉

#### 【イントロダクション】

- ・高松では土地所有と分離をして成功したが、これは100年構想があったからうまく行った。大きい、長いスパンを持って、あとは細かい所を詰めていった方が良い。
- ・タスクフォースは長いスパンでまちづくりを考えていたが、市の基本計画は5年間という数値目標であった事から実現が難しかった。タスクフォースの意見は参考にしても良いが、本勉強会では、短期間でやるもの、長期でやるものと分けて決めていこう。
- ・バス（交通網）や駐輪場をどうするかということはゾーニングにとっては重要である。また、環境とどうつなげていくか（廃油使用のバス）。
- ・オレゴン州のポートランドでは、条例で公共施設の建設費1%分をアートに使っている。当地でも良い手段があれば良いのでは。

#### 【大学生との意見交換】

- ・富山では、にぎわい拠点の創出として街づくりのイメージが出来ている。また、大学生の意見を聞く機会があり、当地でも地元の大学へ話を聞いても良いのではないかと。
- ・若い人が何を望んでいるか？大学生や高校生にも意見を聞いてみたい。まずは、大学生に聞いてみて、その後、意見を徐々に広げて良い。
- ・こちらである程度の構想を持って、学生にぶつけてみたい。
- ・大学でまちづくりを研究しているゼミに声をかけてみたらどうか？
- ・将来的に若い人と意見交換が出来る組織があっても良い。
- ・他の地域から来る当地の大学生は、街の中の事を知らないなので、大学生活4年間の中で街なかを回遊して欲しい。

#### 【地下街の再生について】

- ・素人が決めるのは限界があるので、各論の入り方として、絵のたたき台が欲しい。
- ・まずは、小田原地下街を先に決めても良いのでは（地下街をどんな所にしたいかという論議に集中）。
- ・地下街は1700坪のうち、約6割が通路なので、実質700坪位しか使えず、意外と小さい。
- ・検討委員会では、地下街を「商業機能」と「地域発信機能（ビジターセンター）」にしていくということに方向性が決まっているので、それを掘り下げていきたい。
- ・検討委員会では、地下街にはナショナルチェーンを入れるのはやめようという意見が出た。
- ・TRYフォーラムではスポーツジムという意見が出た。
- ・ハード面、便利な機能、商業の中で何が欲しいか？

- ・住民目線で、何が必要か、並べてみる。
- ・中心市街地に何があったら良いかアンケート取ったらどうか？（この点は、本勉強会で「暮らしと住まいに関する調査」の資料を配布済み）。

#### 「ハード面」

- ・現状では、ハード的要素の面で入口のアクセスが良くない。
- ・大きいロッカーがあった方が良い。
- ・来街者と住民と一緒に集える広場があった方が良い。

#### 「ビジターセンターについて」

- ・住民も使えるインフォメーション（観光案内）があると良い。
- ・当地では冊子を色々なところが作って分かりづらい。柏のインフォメーションセンターでは情報の一元化が出来ており、商業観光の観点で使い勝手が良い。
- ・市役所機能（マロニエの様なもの）があると良い。
- ・当地には87のバンド数があり、ミュージシャンが多いので、活動できる場所を確保してあげたい。

#### 「商業機能について」

- ・どういうコンセプトのものを持ってくるか。
- ・観光案内で一番聞かれる事が多いものとして、地魚や寿司が食べられる施設についての問い合わせである。観光客に施設を紹介できないのが残念である。
- ・地産地消を活かしたものを持って行きたい。
- ・穴埋めする感覚ではダメで、ストーリーを作れるか。

#### 【ゾーニングについて】

- ・第1回の分科会ではお堀端通りの先の国道1号線までの範囲を考えていたが、ゾーニングは狭くしても良いと考える。
- ・「どういう街になりたいか」というものがあって、ゾーニングを決めていく。
- ・小田原駅—小田原城—お城通り—駅周辺商店街 ⇒大きいゾーニングとしてそれぞれに何が必要か考えてみる。
- ・必要なものを並べて、ゾーニングを決めていく。
- ・ロケーションの中でどうはめ込んでいくか？

（次回へ続く）

※大学生との意見交換を実現するため、今後、大学等へ連絡を取り、人事交流が可能か確認していく。

以上

<当日出席者> \*順不同・敬称略

古川達高、石田一夫、佐藤慎一、中戸川洋、松本大地、豊住武志